

2009 京都の秋音楽祭

廣瀬量平メモリアル演奏会

# 「廣瀬量平の遺産」

## 曲目 Program

高雅な猫のための組曲 (弦楽四重奏・初演)  
Suite for Noble Cats (1991)

午後のパストラル (チェンバロ付加版初演)  
Pastrale pour un Après Midi (1985)

序曲「王様と恐竜」  
Overture to "The King and the Dinosaur" (2004)

カラヴィンカ  
Kalavinka (1978)

シンフォニア京都  
Sinfonia Kyoto (1996)

## 演奏

指揮：広上淳一  
Jun-ichi Hirokami, conductor

管弦楽：京都市交響楽団  
Kyoto Symphony Orchestra

2009年11月19日(木)  
19時開演・18時15分開場

京都コンサートホール  
地下鉄北山駅①番出口南へ徒歩3分

Thursday.19 November 2009 at 7PM.  
in Kyoto Concert Hall Main Hall

全席自由 ¥3000 シニア・学生割引 ¥1500  
京都コンサートホールチケットカウンター TEL075-711-3090

主催：京都市、京都コンサートホール

廣瀬量平事務所 <http://www.hiroseryouhei.com>

Ryouhei Hirose Memorial Concert





## 廣瀬量平 (1930-2008)

1930年、北海道函館市に生まれる。5人弟妹の長男。生家は市内の老舗レストラン「五島軒」。日本ではじめて西洋船を作った続豊治（つづきとよじ）を先祖に持つ。幼少時、叔母に初歩のピアノレッスンを受けるうち、協和音、不協和音の違いに興味を持つが、型どおりのレッスンそのものは嫌いだっただ。北洋漁業会社勤務の父と共に、根室、釧路、樺太豊原（ユジノサハリンスク）、札幌と移り住む。

北海道大学予科を経て、1953年同大学教育学部音楽課程を新制1期生として卒業後、東京藝術大学に入学、61年同大学専攻科を修了。池内友次郎に師事し、フランス音楽理論を徹底的に学ぶ。専攻科在学中より商業的作曲活動をはじめが、本格的な創作活動をはじめのは遅かった。この間は沈潜期間だったと本人は語っている。

学んだ音楽は徹底的に西洋音楽だったが、邦楽、民族音楽、アジア音楽、古代にあったらう音楽とその視座を広げ、幅広い分野で、旺盛な作曲活動を展開する。しかしそれらが難解な音楽に堕することを嫌い、自ら「音楽とはコミュニケーションであり、独りよがりではいけない」と語っているように、おおらかで主題の明確な、聞いてわかる音楽であるという当たり前のことを常に意識した。と同時に聞いてわかる音楽は、商業音楽作品にも発揮され、演劇、映画、テレビドラマ、放送、コマーシャル、児童曲、校歌、自治体のための曲などに、親しみやすいメロディなどを提供した。

作品は、オーケストラ、吹奏楽、室内楽、合唱、邦楽、古楽、童謡、讃美歌、仏教曲、電子音楽など多方面に及び、フルートオーケストラなど新しい楽器編成、新作楽器への作品提供も数多い。その作品群は各分野で重要な位置を占めているが、廣瀬曲を演奏する奏者でさえそのことを知らずにいるほど、作品分野は幅広い。

1976年の「尺八協奏曲」ではセンセーショナルな成功をおさめ、翌年の尾高賞を受賞。その年より、京都市立芸術大学に教授として京都に招聘され、後進の指導に当たると共に、京都音楽界のキーパーソンとして活動をはじめ。各種音楽会の企画、京都府・市内、近隣の学校への校歌多数、区の歌、消防隊の吹奏楽、区の音頭なども手がけ、市民、府民に親しまれている。また、京都建都1200年記念「シンフォニア京都」、京都をイメージする「カラヴィンカ」、哲学者梅原猛の狂言に想を採る「序曲・王様と恐竜」など、京都にまつわるオーケストラ曲の大曲を手がけている。

また日本文化研究センターでは、原日本人の音楽についてや、唱歌についての研究発表を行うなど、研究者としての顔も持つ。京都市立芸大では、研究科長、学部長、さらに伝統音楽研究センターの設立に奔走し初代所長、京都コンサートホール館長を歴任。また現代音楽界のとりまとめ役として、日本現代音楽協会の委員長も務める。東京藝大、国立音大、同志社女子大などでも教鞭を執った。京都市立芸大名誉教授。

京都コンサートホール館長当時の2008年11月24日、京都市内にて永眠、市内にて荼毘に付される。享年78。墓所は横浜にある。膨大な著作、著述については、いまだ未整理のものが大部分である。

## Program

### 高雅な猫のための組曲

本来、ヴァイオリンの先祖楽器、ヴィオラダガンバのために作曲された、7つの曲からなる組曲。猫と猫たちの情景を愉快地に活写した曲で、喧嘩、集会、踊り?、昼寝・・・などの猫の特徴的な様子がみてとれる。再演150回を超える。今回は、初めて現代ヴァイオリン属楽器の演奏として初演される。

### 午後のパストラル

雪印のパバロア用のCM曲として作曲された、田園風景が目に浮かぶ曲として映像作家たちが好んで使う曲として、あちこちで耳にするようになっている。今回チェンバロ付加版として、山上友佳子がチェンバロを担当する。

### 序曲「王様と恐竜」

強大な力を持ったしまった権力者のお話。とにかく戦争を仕掛けたいが大義がない。その大義をでっち上げたり、画策したりの権力者と盲従する者の滑稽さ、おろかさを描き、あっと驚く結末の意表を突かれるスーパー狂言。その出来映えとエネルギーに触発されて出来た、テンポの速い滑稽な曲。

### カラヴィンカ

京都をイメージする曲として作曲された。

カラヴィンカとは仏教上の天国、極楽浄土を飛ぶという、得も言われぬ妙声の鳥。カリョービンとも言う。鳥は極彩色に彩られ、目を癒すほど美しく、その声は一度聞いたら忘れられぬほどすばらしい鳴き声だという。そうした鳥が京都の（寺々の）上空を飛ぶという情景はいかなるものだろうか。

### シンフォニア京都

京都遷都1200年記念として、京都市から委嘱された組曲。京都の1200年を記念するなら、京都についての過去の怨念、恐れ、恨みなどを浄化した上で未来を展望するという曲想による。冒頭は、京都に人が住むずっと以前からあって京都を見続けていた深泥池の風景からはじまる。

# 「廣瀬量平の遺産」

Ryouhei Hirose Memorial Concert  
Thursday: 19 November 2009 at 7PM. in Kyoto Concert Hall Main Hall